

常盤学区 医療福祉を考える会議 ニュース NO.1

平成31年1月15日発行
発行元 常盤学区社会福祉協議会
新堂地域包括支援センター
草津市社会福祉協議会

常盤学区では、平成27年度より「常盤学区の医療福祉を考える会議」を開催しており、4年目となります。この会議は、地域住民と医療・福祉の専門機関が、高齢者の暮らしの問題をテーマに、ともに情報を共有し、地域でできることから取り組んでいくことを目的にしています。

この会議が必要とされる背景

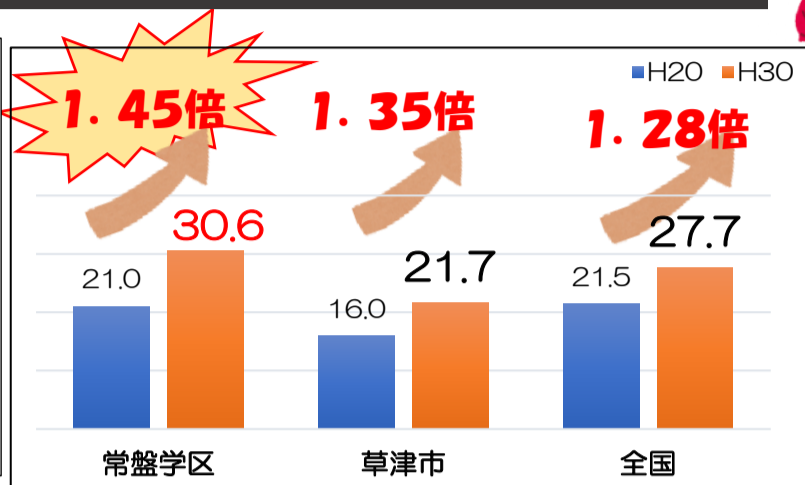


常盤学区の高齢化率は、草津市全域や全国と比較しても高くなっています。10年前からの伸び率を比較しても、常盤学区は他と比べ、高い伸び率となっており、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、常盤学区では3人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されます。

今後も、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者が増加する中、高齢者が生きがいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるためには、地域とのつながりを深め、「見守り・見守られ」、「支え・支えられる」関係づくりを行っていきつつ、上手に介護保険サービスを利用していくことが望まれます。

高齢化率

(%)



この会議ではこんなことをしています！

上記を背景とし、高齢になっても、いつまでも常盤学区で、安心して暮らしていくため、顔の見える関係をつくりながら、地域の問題を「わがこと」として共感する場として、「常盤学区医療福祉を考える会議」が生まれました。この会議では、活動を強制的に新たに生み出すのではなく、常盤学区の高齢者の暮らしの問題を知って、よりよい常盤になるために何が必要か、地域主体ですすめていくことを大切にしています。

そのため、この会議では常盤学区で活動されている右記の団体の皆さんをはじめとした地域の皆さんとともに、一緒に取り組んでいきます。

- ▶ 人と地域が輝く常盤協議会
- ▶ 学区社会福祉協議会
- ▶ 草津栗東医師会
- ▶ 日赤奉仕団
- ▶ 居宅介護支援事業所
- ▶ 新堂地域包括支援センター
- ▶ 草津市役所（地域保健課・長寿いきがい課）
- ▶ 学区自治連合会
- ▶ 学区民生委員児童委員協議会
- ▶ ほのぼのサークル・福祉委員
- ▶ 草津市身体障害者更生会
- ▶ 介護サービス事業所
- ▶ 草津市社会福祉協議会

10月30日に今年度1回目の会議を開催しました

新堂地域包括支援センターより、事例紹介があり、「この事例が自分だったらどうか」という視点で考え、意見交換を行いました。

【認知症と診断された一人暮らしの女性 Aさんの事例】

Aさんは、70歳の頃は、得意の編み物や畑仕事をされており、周りの人たちにも収穫物を配って喜んでもらうことを生きがいに暮らしていました。80歳になると物忘れの症状が出始め、別居している子どもが心配して専門医に受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。認知症と診断され、家族が介護保険の申請を行い、デイサービスの利用をすすめられましたが、この時はまだ近所の友人との交流や、老人会、地域サロンにも参加していたため、利用はされませんでした。しかし、81歳の時に、近所の友人が施設に入所されたことをきっかけに、話し相手がなくなり、趣味だった編み物や畑仕事もしなくなり、どこにも出かけず閉じこもりがちになっていきました。

①「なぜ、デイサービスに行きたくなかったのでしょうか？」



高齢になるほど、新しい場所へ行くのは臆病になるよね。初めの一歩が踏み出せない。

地域とのつながりがあったため、デイサービスに行く必要がない。地域とのつながりを大事にしたかったのでは。



②自分が認知症になっても「行き続けたいところ」「やり続けたいこと」は何ですか？



・友人や地域との関わりを続けたい。
・自分の趣味を続けていけるといいなあ。
・今やっていることが続けられる場があるといい。



・近所の仲間と変わらず付き合っていきたい。
・地域サロンへ行き続けたい。
・認知症になったら、したいこともなくなるのでは？認知症のことがよくわからない。

多かった意見

認知症になっても、今までと変わらないおつきあい、生活を続けられるといいなあ。

会議では活発な意見交換がされ、常盤学区のみなさんが望む地域の姿がみえてきました。今後は、みなさんが望む常盤学区になるために、何が必要かを考えていきたいと思えます。事例のAさんはあなたの10年後の姿かもしれません。あなたが望む生活を実現していくために、今から必要なこと、できることはどんなことでしょうか？